第６講　助動詞（活用）

PART1　助動詞

★助動詞とは？

用言や体言などに付いて、意味を加える語

（現代語）		（古文）	
読まない。	➡	読ま**ず**。	〔打消〕
読んだ。	➡	読み**けり**。	〔過去〕
今、読んでいるだろう。	➡	読む**らむ**。	〔現在推量〕
猫である。	➡	猫**なり**。	〔断定〕

※助動詞を勉強する際の３つのポイント＝**「活用」「接続」「意味」**

〈Memo〉

第6講　PART1　確認問題

① 助動詞についての説明として正しいものを、次の中から選べ。

ア　単独で主語になることができる
イ　物事の動作や状態などを表す
ウ　用言や体言に付いて意味を加える
エ　用言を修飾する

② 「書かない」を古文で表すと「書か［　］」となる。空欄に入る語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ず　　イ　た　　ウ　なり　　エ　て

③ 「今、書いているだろう」を古文で表すと「書くらむ」となる。傍線部の意味として最も適当なものを次の中から選べ。（傍線部：「らむ」）

ア　打消　　イ　過去　　ウ　現在推量　　エ　断定

④「よき事なり。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　よいことだなあ。
イ　よいことである。
ウ　よいことだった。
エ　よいことだろう。

⑤次の傍線部ア～エから助動詞を一つ選べ。

「いまは昔、竹取の翁（おきな）と　いふ（ア）　もの（イ）　あり（ウ）　けり（エ）。」

第6講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕
①　助動詞とは「用言や体言などに付いて、意味を加える語」である。よって、ウが正解。
②　現代語の「〜ない」のように打消を表す古語は「ず」である。よって、アが正解。
③　「らむ」は現在推量を表す助動詞である。よって、ウが正解。
④　「なり」は断定を表す助動詞で、「〜である」と訳す。よって、イが正解。
⑤　「いふ」と「あり」は動詞、「もの」は名詞、「けり」は過去を表す助動詞である。よって、エが正解。

〔解答〕
①　ウ　②　ア　③　ウ　④　イ　⑤　エ